

第一号議案

2021 年度事業報告書

2021 年度はコロナの影響がある中、エッジ本体の事業は当初予定通りに施行されました。

昨年度の事務所をシェアオフィスに移転したことで大幅に固定費と通信費、印刷費の軽減がなされ、テレワークにシフトしたことと本年度は作業過程の見直しや外部発注したいたものを内部で実施するなどによって委託事業費、旅費交通費や人件費の軽減ができました。すべての事業で収益が出ています。

本年度の特殊事情として、APDF(アジア太平洋ディスレクシアフォーラム 2020)の開催があります。本事業は 2010 年にパリで開催された WDF(世界ディスレクシアフォーラム)の一環として、アメリカ・ヨーロッパ(2010)、南米(2014)、アラブ(未開催)、アフリカ(未開催)に次ぐ世界をめぐるディスレクシアに関する会合になる予定でした。ディスレクシアのことが十分に知られていないアジア太平洋地域で開催するにあたって 2016 年から毎年一回会合を開いてきて、本来でしたら 2020 年 5 月に開催する予定でした。

コロナの感染拡大を受けて、一年延期をしての開催でした。国際交流基金からの助成金も得られ、開催地である岡山でも受け入れ態勢ができていたのですが、実際には日英の同時通訳を入れて会場、ライブ配信とアーカイブ配信の形をとりました。

事業自体はアセアン 10 ヶ国からの登壇者を含め、すべてのプログラムを実施でき、参加者も述べ 1000 人になり、研究者、教員、保護者、当事者という立場を超えてのフォーラムが開催できました。ただし、470 万円の赤字となりました。

東京都の福祉保健財団からの助成事業として 2020 年度から実施している読み書きの相談・アセスメント事業は当初の予定通りに進んでいます。当法人が目的としている、SDGsの第 4 のターゲット教育「誰でも質の高い教育を受けられる」ためにそしてディスレクシアの人が生き活きと暮らせる社会のために、これまで足りていなかった部分がこの事業によって補完されたと考えています。

エッジの各事業

詳しくは次ページ以降をご覧ください。

啓発

ディスレクシアセミナー

※一部と二部に分け、一部は基礎、二部は
エッジのサービスの説明

イベント「ディスレクシアだから大丈夫」出版記念イベント

広報

ホームページ

ニュースレター

※制作を内部で実施

メルマガ

フェースブック 3000 名弱 フォロワー

※広告が有効

支援

○ 保護者・当事者支援

DX 会

DX 会キッズ&ティーンズ 今期はジョリーフォニックス講座

BEAM(文部科学省委託事業)教科書の音声化

相談・アセスメント(東京都福祉保健財団助成事業)※新規 2020 より

○ 人材育成

LSA(学習支援員)養成講座 入門コース

LSA(学習支援員)養成講座 本コース★ ※オンライン化、ビデオ作製内部で

MOOC「子どもの味方の教え方」★ ※6月まで FISDOM、2022 年度エッジ内部

MOOC ロンドン大学講座 英語の読み書き困難への支援 ★

アセッサー養成講座(東京都福祉保健財団助成事業)※新規 2020 より

※は 2021 年度の変更点

★はテキストあり

事務局

広報、記念イベント(西嶋豊彦個展開催、ディスレクシアだから大丈夫!出版)

LSA 事業入門コース、本コース(独自)

相談・アセスメント事業(東京都福祉保健財団助成事業)

BEAM 事業(文部科学省委託事業)

読み書き困難指導・支援講座(独自・新規)

ジョリーフォニックス(独自)

APDF2020(アジア太平洋ディスレクシアフォーラム 2020)(国際交流基金、岡山市

助成事業)

2021 年度事務局報告

(啓発)

メルマガ

年 12 回、号外 4 回

ニュースレター

年 3 回「55 号(2/25)、56 号(6/25)、57 号(10/25)」

印刷部数 55 号(300 部)56 号(300 部)57 号(400 部)

DX セミナー

第 60 回 1/16 音声教科書 BEAM について 参加 4 人

第 61 回 2/21 ディスレクシアと英語 参加 23 人

第 62 回 3/13 相談・アセスメントから合理的な配慮へ 参加 22 人

第 63 回 4/18 子どもの味方の教え方 (MOOC コース) 参加 10 人

第 64 回 5/23 現役の LSA (学習支援員) が実際に扱っている事例に基づく話
参加 11 人

第 65 回 6/12 DX 本人の事例に基づく話 参加 9 人

第 66 回 8/7 子どもの心に寄り添う 参加 6 人

第 67 回 9/19 ディスレクシアへの合理的な配慮 参加 9 人

第 68 回 10/10 Future of dyslexia 参加 2 人

第 69 回 11/21 「子どもの味方の教え方」E-Learning 講座説明会 参加 2 人

第 62 回 12/19 「子どもの味方の教え方」E-Learning 講座説明会 参加 4 人

DX 会

第 92 回 12/4 野川公園探索 ディスレクシアの情報交換 参加 5 人

(事務局年活動)

寄付:3000 円以上 112 人(正寄附 68 人、DX パートナーズ 19 人、賛助会員 25 人)

会員(正会員 43 人、賛助会員 25 人)

事務局 柴田

記念イベント(エッジ設立 20 年記念)

西嶋豊彦個展

2021 年 10 月 2 日から 17 日

@ギャラリー江夏

トークショー、絵画の売り上げの一部ご寄付

「ディスレクシアだから大丈夫!」金子書房 出版記念

2021 年 10 月 9 日

オンライン シンポジウム Fumiko Hoeft 氏、辻、成田、藤堂トーク

90 名ライブ参加、アーカイブなど

2021 年事業報告

事業名 LSA(学習支援員)養成講座・入門コース

● 2021 年事業報告

2021 年1~12 月

申込者数:93 名

受講者数:65 名

修了者数:49 名

特記事項

1. 10月より講座料の入金確認を通帳記入から三菱 BizSTATION へ移行。オンライン上での入金確認ができたおかげで、受講生へ講座の動画配信までの時間が短縮できた。2022 年3月以降はオンライン決済システム Peatix での決済の予定しており、講座申込から決済までの時間の短縮をはじめ担当者の事務作業の軽減も含め更なる効率化が見込まれる。
2. 受講生から提出されたレポート内容の確認と、修了者に修了証を発行する部分はスタッフが直接担う部分なので、新しく Peatix 決済を取り入れるにあたり、どの部分で効率化が出来るか検討する必要がある。

従事スタッフ:高尾美津紀, 竹ノ谷真理子

事業名 LSA(学習支援員)養成講座・本コース

小中高等学校における通常学級において、困り感を抱えている児童生徒への支援ができる人材の育成

● 2021 年事業報告

LSA2021 講座 全 17 回(実施期間:2021 年 7 月~2022 年 1 月)

2022 年 1 月 23 日(日)に終了し、修了生 32 名が誕生

LSA2021 受講生 44 名 修了生 32 名

LSA2020 受講生 54 名 修了生 35 名

- ・ 昨年度より Web 開催。前年に比べて修了しやすい環境が整いつつある今年度の運営工夫は以下に記す。

講座に関して

初開催の講座

- ・ HSC(長沼睦夫先生), 算数の支援(熊谷恵子先生), 英語の支援(村上加代子先生), DCD(中井昭夫先生)

安定の満足度

- ・ 講座満足度はおおむね良好。
LSA2021 より 1 日 2 講座実施としたが、受講生から「平日夜なども利用して 1 日 1 講座にして欲しい」という意見が多く寄せられた。
- ・ 受講生の評価(満足度)が高かった講座
 - ① 就労支援の現場から～就職してから大切なこと・学齢期から身につけておきたいこと～(鈴木慶太先生)
 - ② 学び方の異なる子どもたちが通常の学級で学ぶための工夫～タブレットを紙と鉛筆の代わりにして学ぶ～(平林ルミ先生), ③ DCD(中井昭夫先生), ④ 発達のつまずきから考えるアプローチ(川上康則先生), ⑤ 国語の支援(上條大志先生)

運営に関して

説明会実施(5/23)

- ・ 講座の申し込み開始(6/1)の 1 週間前に説明会を実施(DX セミナー内)
- ・ 説明会に参加した方の 9 割がコースを受講した

Peatix 決済へ移行

- ・ チケット販売・参加者管理を Web 管理システム Peatix へ移行。
- ・ 講座受講希望者への入金案内・振込確認・入金連絡等、一連の事務作業を自動化でき煩雑な作業が軽減した

交流会開催(9/26, 10/26, 11/14)

- ・ 「交流会」を 3 回実施。出席者の満足度は「受講生同士横のつながりができた」と良好。交流会欠席者より「2 講座を受けた後の交流会は出席し難い」との意見が寄せられた。

従事スタッフ:竹ノ谷真理子・高尾美津紀

以上

事業名:相談・アセスメント

東京都福祉保健財団助成事業

事業概要:読み書きの困難さに関する相談とアセスメントの実施
アセッサーの育成

【相談・アセスメント】従事スタッフ:岩田、樋口

2021年1月~2021年12月

相談件数 :91件

アセスメント件数:71件

コロナ禍でほぼ全ての相談・アセスメントを ZOOM で行った。

一昨年、港区で説明会をやり、多くの港区民にご利用いただいた。昨年も各地で説明会を開催する予定だったが全てキャンセルとなり、特に東京都のアセスメント件数が思うように伸びなかった。アンケートを実施し、アセスメント後の意見書を学校に提出し、その後学校、保護者と本人がどのように変容したかを検証している。

【アセッサーの育成】講師:河野俊寛先生 従事スタッフ:上田、樋口

アセスメントができる人材育成

第1期アセッサー養成講座:2021年1月終了

修了者:6名

第2期アセッサー養成講座:2021年7月終了

修了者:5名

OJT を十分行った上、現在第1期から3名、エッジのアセッサーとして活躍中

第2期アセッサーは現在 OJT 中。

アセッサーフォローアップセミナー:2021年8月に実施:事例検討を行った。

第1期はアセスメントの材料として URAWSS II と STRAW-R を勉強し、エッジでもその2つでアセスメントを行なっているが、第2期は STRAW-R ではなく、稲垣ガイドラインと東京都教育委員会のアセスメントで養成講座を行い、フォローアップで STRAW-R の勉強をした。今後第1期も稲垣ガイドラインと東京都教育委員会のアセスメントを利用できるよう、フォローアップセミナーで行う予定。

文部科学省委託事業 BEAM 事業年間報告

○今年度の活動計画

- ① 改訂教科書データ製作申請提供業務
- ② BEAM の AI 音声の性別、スピードに関する調査
- ③ BEAM 利用者向け動画コンテンツ作成
- ④ 年2回検討委員会 開催場所:ZOOM
第1回 5/17 19:00~21:00 第2回 12/14 19:00~21:00

○各計画毎のご報告

- ① 【成果】音声化、変換アップロードと速やかに行われ当初の予定よりもスピーディーに作業が進みました。理科のリクエストに対応。提供を始めています。
【コロナ・リストラエ夫】サイボウズでの視覚的情報整理が進み作業時間スピードが上がり効率化、予算内でより多くの BEAM の提供を行うことができたと思います。
【課題】サイボウズの管理ルールが一定していないところがあり改善が必要です。
- ② 【成果】検討委員の安部先生のご協力で、星槎名古屋中学校で BEAM のアンケート調査を行いました。音声の好み、スピード等は従来のもので十分である結果が示されたので AI ソフトのバージョンアップは見送りました。読み書き困難を持つ子と困難のない子では BEAM の使用法が異なる傾向にあり、困難のありそうな子は文字を追わないで音声に集中することに効果を感じているという一定の傾向を掴めました。
【コロナ・リストラエ夫】調査を行い、高額ソフトの購入を見直せました。
【課題】単発ではなく、継続的な調査をしていく必要性があると感じます。
- ③ 【成果】スタッフの中嶋による効果的なイラストで、必要な知識の動画化を行うことができました。計8動画をアップロードしました。LSA 講座のフォローアップや、検討委員会でも動画をご覧いただき好評を得ております。
【コロナ・リストラエ夫】内部スタッフで製作したことによるコストカット。
【課題】Youtube チャンネルへのアクセスにつながる工夫が必要です。
- ④ 【成果】検討委員の一人である野口先生を窓口、図書館司書の方々に読まれる雑誌に藤堂会長のコラムが連載されました。また、BEAM アンケート後、安部先生が WISC の傾向との関連性についても調査を継続していただき、現場の先生がキャッチしやすい方法に繋がるデータを戴くことができました。
【コロナ・リストラエ夫】ZOOM 会議での開催によるコストカット。
【課題】新たに必要な情報を頂ける検討委員の発掘が必要です。

本年度 BEAM 検討委員 エッジ BEAM スタッフ

筑波大学元教授 医学博士 宇野彰先生・専修大学教授 野口武悟先生
星槎国際高等学校副校長 安部雅昭先生・株式会社エーアイ 森千恵様
東京大学先端技術研究所 長田江里様・小田原市立足柄小学校教諭 上條大志先生
保護者代表(茨城県立並木中等教育学校教諭) 三宅さや香先生
臨床発達心理士 上田恭子・NPO 法人エッジ会長 藤堂 栄子
NPO 法人エッジ製作スタッフ代表 中嶋幸子・NPO 法人エッジ事務局 鴨井静

以上

読み書き困難指導・支援講座(独自・新規)

1) 子どもの味方の「教え方」

2021年7月まで FISDOM の MOOC 講座として展開。期間中 80 名の受講

2022年1月からエッジの独自事業として開催するための準備。新たな講座(英語)及び受付開始。

2) Supporting Children with reading and writing difficulties ロンドン大学

日本語版翻訳+テキスト提供 年間 300 名ほど日本から受講

ジョリーフォニックス(独自)

ディスレクシアと診断があるエッジでアセスメントを済ませた児童生徒向けにフォニックスの基礎を年間9回の講座で修得を目指すした。

6名受講、講師丸山敦子先生

日本で育ったディスレクシアの児童生徒がフォニックスを習得し、読めるようになった。

2021年5月吉日

〒108-0014

東京都港区芝4-7-1 西山ビル4階

認定NPO法人EDGE

APDF2020 実行委員長 藤堂栄子



実施報告書

謹啓 新緑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、NPO法人エッジおよびディスレクシア（読み書きが困難な障害）に関する活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。下記の事業・行事が終了しましたので、ご報告申し上げます。

記

1. 事業名 アジア太平洋ディスレクシアフォーラム2020

2. 主催団体 APDF2020 実行委員会

3. 実施日

2021年5月8日（土） 10:00 ～ 17:30

2021年5月9日（日） 9:00 ～ 18:00

4. 会場 岡山コンベンションセンター（及びライブ配信・アーカイブ配信あり）

5. 参加者数

470名

6. 事業の概要

ユネスコに加盟しているアジア太平洋地域と日本のディスレクシアの本人、関連する教育機関、政策立案者、研究者、支援者・保護者などが集まり、各地域におけるディスレクシアの啓発、教育的支援、指導の普及についてそれぞれから発表し、課題解決に向けて議論を致しました。

7. 事業の成果

多様な歴史・文化・言語・文字などの背景を持つ人々がディスレクシア（読み書きの困難）という共通課題に取り組むことで、SDGsの「誰にでも質の高い教育を」のゴールを目指してインクルーシブ教育をアジア太平洋地域で浸透させていくことの意義を再確認し、新たな動きの契機とネットワークを作ることができました。

8. 添付資料 : 参考資料(プログラム・ガイドブック・写真)

以上